



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (29年11月号)

平成29年11月1日

晩生の台風21号が襲来しましたが、皆さま被害はございませんでしたでしょうか？
さて、今月の活動日は次の通りです。小春日和に軽く汗を流せるといいですね。

11月12日(日)

9:00~11:00

夏花が終わり、台風の影響で寂しくなった高知駅南口電停脇花壇「みんなの庭」(写真)に秋—冬花を植えます。追って北口駐輪場まわりの植栽も夏草を除きたいと思います。

14:30~15:30

中央公園前の帯屋町筋でいつものチラシ配りを行います。同時に、ますます円熟の葛岡さんによるギターライブも予定しています。

なお、12月の共同活動は17日(日)、1月は14日(日)の予定です。

先月のトピックス

○10月14日(日)は本格的な雨で朝の作業は中止でしたが、午後のチラシ配りとライブはアーケードに守られて予定通り行いました。思いもかけず、チラシの内容に賛同してその場でご寄付くださった方もおられ、継続の大切さをかみしめました。

今年ボランティア仲間入りのUさんが、枯れ始めたアサガオの取り除きや、台風でなぎ倒されたコスモスの片づけなどを、活動日とは関係なくマメにやってくださいました。

○10月16日に高知市のみどり課を訪ねて近況を伺いました。

- ・駅前のシンボルツリーはクスに決定。電停東脇の草地にこの冬に植える予定です。
- ・いわゆる「南北線」美化の一環で、駅前から高知橋までの電車通り歩道脇花壇の整備・花植えを10月29日に行う予定。北口駐輪場周り植栽の手入れも検討中です。
- ・北口ロータリーに今夏植えたハクモクレンが根付かないので、植え替え予定です。(続きは次ページをご覧ください。)



寂しくなった「みんなの庭」

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える

(16)「芝生化」は不自然

「高知方式」で小学校校庭を「原っぱ」にしよう



子供たちが休み時間や放課後に校庭に出て思い切り遊ぶことができるよう、校庭を人にも環境にも優しい芝生にしようという運動が全国各地に広がりましたが、いろいろ問題が生じて思うようには進んでいないようです。踏まれてすりきれ、病虫害ですぐ枯れる、雑草にやられる、維持に手間と費用がかかりすぎる等々・・・。もともと「不自然」なのです。

そこで「鳥取方式」が注目されています。ゴルフ場や庭園ではないのだから、時々短く刈るだけで肥料や水遣りは要らない、子供を遊ばせるのなら雑草が生えた「草地」でもいいではないか、というものです。

(鳥取県ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/shibafuka/>)

鳥取方式ってなんだ?

今、全国に広がっている「鳥取方式」の芝生化とは、いったい…?

従来のメンテナンス

- 立入禁止。
- 雑草が混じると大変。
- 多額の経費がかかる。

手間とお金がかかるな。

鳥取方式は…

- 面積や利用人数に応じて最適な芝生のグラウンドをつくり、子どもたちが毎日走り回れます。
- 雑草も一緒に刈り込むため、雑草を抜く必要がありません。
- 鳥取方式とは、こうした手法により低コストで芝生のグラウンドを広げる、全く新しい取組みです。

これならできそう!

3ヵ月で完成 ポット苗方式

のぞみ保育園(鳥取市)の場合(10㎡/人)

- 1 植え付け前**
縦横50センチ間隔に引いた線の交点に穴を掘ります。
- 2 植え付け時**
掘った穴にポット苗を植え付けます。
- 3 1ヵ月後**
徐々に広がりながら自生します。
- 4 3ヵ月後**
約3ヵ月で芝生化できます。

その後は…
週1〜2回程度(夏)芝刈りを

1日で完成 ビッグロール方式

久松保育園(鳥取市)の場合(3㎡/人)

- 1 芝生化前**
芝生化前の園庭です。
- 2 作業開始**
午前10時に作業が始められました。
- 3 作業中**
1枚目のロールが敷かれます。
- 4 完成**
午後2時には子どもたちが遊び始めました。

乗用もあります。

※いずれの方法も養生が不要です。

「『芝生』というのは必ずしもシバ草でおおわれている必要はない。低く刈りこまれた草のじゅうたんであれば、いろいろな雑草が混ざっていても、それは『芝生』と呼ばれる。」と専門家の先生も言っています(進士五十八著「日本の庭園」より)。

そこでご提案ですが、日照が長くて高温多湿の高知には、シバに執着しない「高知方式」があってもいいはず。校庭を、刈りこまれた「原っぱ」にしてはいかがでしょうか?